

第2回 学校運営協議会議事録

〈日時〉 令和2年10月28日(水) 14:00~17:00

〈場所〉 校長室

〈出席者〉 学校運営協議委員 後上 鐵夫、佃 英男、林 孝信、鉄沢 尚美、山下 勝也

本校教職員 吉田 隆、鶴川 正徳、池上 万由美、川端 裕子、
油谷 貴志、秋山 広樹、四反田 武志、今川 陽介、
黒木 勇彌、中林 千尋、坂 圭菜

欠席者 久岡 てるみ

(敬称略)

- 1、 開会挨拶
- 2、 会長挨拶
- 3、 授業見学
- 4、 議事

(1) 今年度の学校教育計画の進捗状況について

【中期的目標】

- ・他校種や地域との連帯を深める等の教育活動が今年度はコロナ渦で難しい状況である。
- ・学校ホームページを活用しての学校情報発信が促進されつつある。
- ・第1回漢字検定、英語検定は、コロナ渦の影響3年生のみ受験。2回目は、例年通り1、2年生も多数受験。
- ・人権研修、教育相談研修は実施。

(2) 第1回授業アンケート結果について

- ・例年通りの形式で実施。
- ・無遅刻無欠席で授業に臨んでいるかを問う「生徒取り組み1」の設問の回答結果が、『当てはまる』と回答した生徒が、昨年の学校平均は86%に対し、今年度は87%となった。
- ・生徒の興味・関心や身に着いたと感じることが出来るかを問う「生徒意識1・2」の設問の回答結果も、全体的に上昇しているが生徒取り組み率の割に『当てはまる』回答した生徒は少ない。
- ・「生徒取り組み」「生徒意識」を除く設問は、『生徒の感想』と捉えることが出来、具体的な要望(板書等)を書いている生徒も少なくはなく、担当教員に渡し、今後の授業に生かすことが出来る体制となっている。また、反省すべき点をも認識することも出来る。
- ・全体の傾向として、実技教科の方が積極的な生徒が多い。

担当者より報告

(1) 生活指導部

- ・年度初めが休校となった影響なのか、全体的に例年よりも、生徒の落ち着きがないと見える。

- ・近年、アンケートで要望が多かった女子のネクタイの販売が実現。現段階では、リボンの購入が必須であり、ネクタイは希望者のみの購入となっている。将来的には、どちらか一方の購入を必須とする予定である。

（２）進路指導部

- ・志望先人数分布は概ね例年通り。専門学校志望は本校ではいちばんのボリュームゾーン。
- ・就職関連では、コロナ渦で就職解禁日が例年より一ヶ月遅れの１０月１６日。
- ・学校斡旋就職希望者３５名中、１９名が合格（１０／２６現在）。
上記の数値は他校と比較しても良好。年次団教員による、日々の面接対策の効果が伺える
- ・zoom を利用しての面接試験を実施している企業もあり進路指導部のタブレットを活用している。

（３）広報委員会

- ・中止が相次いだ広報活動が再開しつつある。
- ・１１月２０日はＡのう祭と自立支援部オープンスクールが同時進行で開催。
- ・Ａのう祭は、今年度は作物の購入は予約制で当日は、申し込み者が取りに来るのみ。保護者・地域の方々が来校して楽しんでいただく内容のプログラムは少なめ。

（４）自立支援部

- ・自立支援コース生徒が１学年４人募集となって３年。現在１２名の生徒が在籍。
- ・今年度は１７名して倍率は４.２５倍。一方で、定員割れしている支援学校高等部がある現状。支援学校・自立支援コース・共生推進コースが連携していくことが必要。
- ・３年次生徒は、美容補助、店舗バックヤード、鉄道系、職業訓練校とそれぞれの進路に向かって進んでいる。
- ・一般クラスの生徒のように学校に求人が送られてくるわけではなく、生徒の興味・関心に合わせて、学校が開拓して求人をいただかなければいけない。
- ・社会における障がい者雇用の体制は悪くはない。その反面、個々の生徒のマッチングが複雑化している状態。そのため、繰り返しの実習が必要。

（５）２年次団

- ・行き先・日数等に変更があったが令和３年１月１８日～２１日の日程で修学旅行を実施。行き先は、熊本・長崎。
- ・全行程において、添乗員・バスの運転手を含めた関係者全員のマスク着用の徹底。
- ・バス乗車時・観光中の体調管理・手指消毒の徹底。
- ・３密を回避することが難しいと考えられるクラスレクを中止し、ハウステンボスでの観光。

（６）生徒会指導部

- ・令和２年度入学生１年次アンケートは、例年はGW明けに実施しているが、今年度は９月１７日に実施。

- ・問3 申し込み不要説明会の参加率が年々上昇している傾向。申し込み不要であることは参加しやすく、出願前に実際に学校の雰囲気を見に来ることは、もはやスタンダードになっていることが伺える。
- ・問7 最重要視した受験の理由の、「06.自宅から近いから」「09.制服が良いから」「11.総合学科で進路にあった多様な科目が学べるから」との回答は、例年上位に入る。
- ・全体として、前期後期入試制度だった頃と比較して生徒のモチベーションの違いが感じ取れる。前期入試において選抜され入学してきた生徒は、「何がしたいか」「何を学びたいか」が定まっていた生徒が多かったため、行動的であった。その頃と比較して、現在は、特に目標はなく、「楽しそうだから」といったような理由で、本校を志望する生徒が多い傾向。

5、 質疑

Q： 座席は決まっているのか。

A： 決まっている。後方の席になると気が緩む生徒が多い

Q： 自立支援コース生の卒業後の定職率はどうなのか。

A： 定職率は直近3年間では90%超。退職したときにヘルプを出せない生徒もいる。連絡してさせくれば、こちらからサポートすることは可能。

Q： 学校経営計画にある小中学校連携、国際交流事業について。

A： 小学生を受け入れての体験授業（農業、福祉）等。また、国際理解教育として、台湾・韓国・インドの外国人生徒を受け入れて、体験授業や交流をする行事を行っていた。修学旅行を韓国へ行っていたこともある。

Q： 修学旅行で困っていること

A： 消毒液や非接触型の体温計の確保。中でも、あらゆる活動を分割して行う計画立てがいちばん大変。例えば、ある活動を半分ずつ行った場合、待っている残り半分の生徒にも活動を与えなければいけない。そのため、例年よりもたくさんのことを計画しなければいけない

6、 その他

○第3回目実施日： 令和3年1月27日（水）